

“わたしのまち”

練馬区

練馬の魅力はよりどりみどり

♪みどりの風吹くまち♪練馬を体感できる新スポット♪

都心に近い利便性がありながら、23区一の緑被率を誇るみどり豊かな環境が魅力の練馬区。

今年春、よりどりみどりの練馬の魅力を体感できる新スポットが続々と誕生しました。

「自然×冒険×交流」をコンセプトにした「こども森」、

区立美術館に隣接する緑地に32体の不思議な動物たちが出現した「美術の森緑地」、

あの有名アニメの豪華キャラクターが迎えてくれる「大泉アニメゲート」など、

練馬を楽しむ新スポットを紹介します。



7月に公用車として導入された燃料電池自動車「MIRAI」に、練馬のみどりをテーマにした「よりどりみどり練馬」のラッピングを施した

ここは幻想美術動物園 ♀
練馬区立
美術の森緑地

「Yori Dori Midori練馬」

豊かなみどりと都心に近い利便性が両立した環境が魅力の練馬区。区内には663か所の公園・児童遊園（23区

一）があるほか、農地が多く残り、地元の野菜を身近で購入することができま

す。近年は西武池袋線の駅周辺開発が進み、商業施設がより一層充実する

など、便利で住みやすい地域です。そうした魅力的なまちでありながら、その実態はなかなか伝わっていないよ

うで、平成24年度に実施された「住んでみたい街アンケート（首都圏版）」では、練馬区は「実際に住んでよかつた街」では10位ですが、「住んでみたい街」では143位でした。

区民の9割が住みごこちが良いと回答しており、実際に住んでみると満足度が高いことがわかります。

住んでみてわかる区の魅力が区外にはまだ知られていないことから、区民と共に区の実像を正しく伝えるイメージづくりを行うため、区は「Yori Dori Midori（よりどりみどり練馬）」プロジェクトを展開しています。

区では今年3月に、今後の区政運営の方向性を明らかにする新ビジョン「みどりの風吹くまちビジョン」新しい成熟都市・練馬をめざして」を策定しました。これに合わせ、プロジェクトでは「よりどりみどり練馬」をス

ローガンに、みどりあふれる多彩な区

からだと足が大根をデザイン、頭とたがみが植栽の馬「ネリマーマ」や植栽彫刻のクマ、ブロンズのライオン、カラフルなキリンなど不思議な生き物がいっぱい





みどりをモチーフにした区民参加型広報キャンペーン

よりどりみどり
Yori Dori Midori 練馬
プロジェクト

23区一の緑被率を誇る練馬区の多彩な魅力を全国に発信していくため、キャンペーン第1弾では、区内の「みどり」をテーマにした写真を募集し、集まった公園や農地、まちかどの風景など約2300枚の応募写真を特設サイトで紹介している。

第2弾では、集まった写真を使って2m超のシンボルアートを制作し、応募写真とともに区内5か所で写真展を開催した。

第3弾では、区民1000人以上が参加したテレビCMを制作し、10月から地上波テレビや映画館、首都圏主要鉄道駅のデジタルサイネージ等で放映した。YouTubeでの動画再生回数は40万回に達した(10/23現在)。

また、応募写真から緑色を抽出して、練馬区オリジナルのみどり色「NERIMA GREEN(5色)」を絵具として実物化し、区のプロモーションに使用している。



9月5日、石神井松の風文化公園にみどり色の衣服を着た1000人を超す区民が集まり、CMの撮影を行った。人文字グリーンアート、パレードの様子などが撮影された



「こどもの森」で木登りやターザンロープで遊ぶ子どもたち。子どもたちはここでさまざまな冒険を体験する

の魅力を発信しています。

今年春に新しくオープンした新施設

も、こうした「みどりの風吹くまち」

練馬のよりどりみどりの魅力を楽しみ

ながら体感できる空間として人気を集

めています。

「こどもの森」
わんぱくを育てる冒険遊び場

東京メトロ有楽町線・副都心線水川

台駅から徒歩10分ほどの住宅地に広が

る「こどもの森」は、今年4月にオー

プンした「自然×冒険×交流」をコン

セプトにした区立緑地です。

区には屋敷林や農地といったみどり

が多く残っており、面積約3000㎡

のこの緑地も、畑や果樹などのみどり

の資源を生かした緑地として誕生しました。

敷地内には、見晴らし台、ウッドデ

ッキが付いたこどもの森の家、畑、キ

ウイ棚、木々にロープが張り巡らされ

た冒険ひろばがありますが、遊び方は

子どもしだい。秘密基地をつくったり、

木登り、ターザンロープ、泥遊び、虫

とりなど、豊富な自然を生かし、豊か

な発想力とアイデアで自由に冒険し、

工夫し、のびのびと遊ぶことができま

す。

また、木片や工具類が置かれている

ので、自由に工作が楽しめます。

こどもの森には、子どもたちの遊び

を見守るプレリーダー(指導員)がい

るので安心。いっしょに遊びながら、

子どもたちの自由な発想が広がるようサポートしています。

また、収穫祭など季節のイベントも

盛りだくさんです。こどもの森の畑

「こども農園」では、半年かけて子ど

もたちといっしょに野菜づくりを行っ

ています。雑草を抜いたり、肥料をあ

げたり、土をかぶせたり、手間と時間

をかけて自分たちでつくる野菜はとて

もおいしく、収穫時の達成感はひとし

おです。こどもの森で遊ぶようになって、さらにみどりが好きになったとい

う子どももいます。

季節ごとに表情を変える自然の中で、

子どもたちは思いっきりからだを使い、

ときには冒険し、自分たちで遊びを考

えます。区では、こうした「わんぱ

く」体験や自然豊かな練馬の原風景に

子どもたちが直接触れ親しむことで、

将来に渡るみどりの保全につなげたい

と考えています。

幻想的な美術動物園「美術の森緑地」

西武池袋線中村橋駅から徒歩3分、

練馬区立美術館へと続く「美術の森緑

地」に、新しい空間が出現しました。

天然芝を敷きつめた園内には、20種

類・32体の不思議な動物たちの彫刻群

が展示されており、訪れた人は見るだ

けでなく触れたり座ったりすることが

できます。キリンやゾウなど誰もが知

っている動物たちが想像を巡らせて楽

しめるアートになった、これまでにな

いタイプの幻想的な美術動物園です。

正面入口では、みどりをまとった高

さ4mのクマが訪れる人を出迎えてく

れます。

隣接する区立美術館では、11月15日

まで開館30周年記念「アルフレッド・

シスレー展」印象派、空と水辺の風景

画家」展を、11月21日から平成28年

2月7日まで「浜田浄の軌跡」重ねる、

削る絵画」展を開催します。

美術の森緑地が開設され、緑地を訪

れたのをきっかけに美術館に入ってみ

たという人もいて、美術館では以前よ

り子ども連れの来館者が増えています。

美術館で芸術鑑賞を楽しんだあとで、

晴れた日は芝生に座ってお弁当を食べ

西武池袋線大泉学園駅北口直結のペDESTリアンデッキに誕生した「大泉アニメゲート」には、等身大ブロンズ製のキャラクターモニュメントが勢ぞろいしている。写真は左から、『鉄腕アトム』(手塚治虫)より「アトム」、『銀河鉄道999』(松本零士)より「星野鉄郎」と「メーテル」、『あしたのジョー』(高森朝雄、ちばてつや)より「矢吹丈」、「うる星やつら」(高橋留美子)より「ラム」



©手塚プロダクション



©松本零士・東映アニメーション



©高森朝雄・ちばてつや/講談社



©高橋留美子/小学館

たり、彫刻に触れて遊んだり、ゆったりとした時間を過ごすことができます。
豪華キャラクターが夢の競演「大泉アニメゲート」

今年春、西武池袋線大泉学園駅北口地区の市街地再開発事業に合わせ、ジヤパンアニメ発祥の地・大泉の玄関口として、駅北口直結のペDESTリアンデッキにアニメデザイン空間「大泉アニメゲート」を整備しました。空間内にはアニメファンにおなじみの人気キャラクターを模した等身大モニュメントを設置し、訪れる人を迎えています。

そのほかにも、区ゆかりのアニメ29作品のカットを使用した「ねりまアニメ年表」や、映画・アニメとともに歩んできた大泉のまちの移り変わりを写真で振り返る壁面デザイン「グラフィックウォール」も展示しており、練馬とアニメの関係について知ることができます。

4月4日の除幕式には、モニュメントキャラクターの原作者として、漫画家の松本零士さんと高橋留美子さんが出席されました。大泉アニメゲートを訪れた人からは、「子どもの頃からあこがれていたキャラクターたちが躍動感ある姿で再現されている感じが驚いた」という声が上がっています。

練馬区は、日本のア

国内のアニメ制作会社数ランキング

都道府県別企業数

- 1位 東京都 365
- 2位 埼玉県 13
- 2位 大阪府 13
- 3位 神奈川県 3
- 4位 長野県 3

東京都内の企業数

- 1位 練馬区 79
- 2位 杉並区 70
- 3位 西東京市 30
- 4位 港区 20
- 5位 渋谷区 19

*一般社団法人動画協会「アニメ産業レポート2014」(調査データは2011年版)より



多くの人が行き交う大泉学園駅北口に直結したペDESTリアンデッキにある「大泉アニメゲート」。等身大の人気キャラクターと記念撮影を行う人も多い

ニメ製作が本格的に始まった。ジヤパンアニメ発祥の地であり、日本初の劇場用長編アニメ『白蛇伝』や日本初の連続テレビアニメ『鉄腕アトム』が製作された。アニメ・イチバン(最初)のまちです。現在でも区内には市区町村単位で全国一の数のアニメ関連会社があり、練馬区発のアニメを支えています。

『白蛇伝』は大泉にある東映動画(現・東映アニメーション)が昭和33年に製作したもので、東映動画には後のアニメの発展を支える人材が集まっていた。日本を代表する映画監督となつた宮崎駿さんや高畑勲さんも東映動画のOBです。

また、『鉄腕アトム』の原作者、手塚治虫さんは富士見台に虫プロダクションを創設し、数々の作品を生み出し

ました。そのほかにも区内には、松本零士さんやちばてつやさん、高橋留美子さんをはじめとする漫画家が多く住んでいます。

区内では、さまざまなアニメ関連のイベントが行われています。

アニメで地域を盛り上げるために、平成14年から、大泉地域の商店会が中心となって開催している「アニメプロジェクトin大泉」は、毎年多くの家族連れやアニメファンが訪れるにぎやかで笑顔あふれるイベントです。地元の大泉アニメーションの協力を得ながら回を重ね、今年で12回目を迎えました。今年5月も大泉地域の4会場で開催し、トークショーやアニメ上映会、ステーションなどさまざまなプログラムを催し、まちぐるみでイベントを盛り上げました。

平成19年から毎年開催している「練馬アニメカーニバル」は、アニメのまち練馬区を区内外にPRする一大イベントです。今年も10月17日・18日の2日間に渡り、練馬駅北口周辺施設を会場として開催し、約1万2000人の来場者が、ライブステージ、作品上映・展示、アニメ制作体験などを楽しみました。